

Macour Time Machine

主筆ヤマケイの

マクール タイムマシン

24歳の濱野谷憲吾がダービーを制してSG初優勝!

1998年

1998年主な出来事

- 長野冬季オリンピック開催、日本の金メダルは5個
- サッカーワールドカップ、日本初出場も3戦全敗
- CDバブル絶頂期
- 和歌山毒物カレー事件
- 【流行語大賞】ハマの大魔神 (佐々木主浩)、凡人・軍人・変人(田中真紀子)、だっちゅーの(パイレーツ)

電話投票で全国のレース購入が可能に。場外発売も拡大

1998年(平成10年)は、ファンにとっては舟券購入の機会がグーンと増えた年となった。

何と言っても、4月から電話投票で全国のレース場の全てのレースが買えるようになったことだ。当時はまだ総売上に対して、電話投票は1割強に過ぎなかったが、インターネットの拡大でその割合は年々高まっていくことになる。さらに場間場外(レース場において他場のレースが買える)が拡大。ボートピア(場外発売所/現在のボートレーススケッチショップ)も全国で次々にオープンした。購入機会はどんどん増えて便利になった。

20代スターのSG獲得が続く

水面では前年に続いて、SG初制覇と20代スターたちの活躍に沸いた。クラシック(総理大臣杯)は、

西島義則が同タイトル初の連覇を成し遂げたが、オールスター(笹川賞)は優勝の山崎智也(24歳)をはじめ、上位4着までを20代が占めた。オーシャンカップで優勝した松井繁もまだ28歳だった。

多摩川で行われたメモリアル(モーターボート記念)では、地元(モーターボート記念)の長岡茂一がSG初優勝。ダービー(全日本選手権)もまた24歳の濱野谷憲吾が難水面・福岡で豪快にまくってSG初V。さらにこの年新設されたチャレンジカップ(平和島)でも江口晃生が差し切ってSG初優勝と、関東勢のSG初制覇が3人続いて大きな話題となった。

グランプリは怪物君の登場!

そして迎えた年末のグランプリ(賞金王決定戦)。ここでは、怪物君(こと太田和美(25歳))が5コースマくりにSG初制覇を飾った。そして最多賞金のタイトルを獲得したのは松井で、初の最優秀選手も受賞した。松井の「歴代獲得賞金ロード」は、この年に本格的な

優秀選手表彰

【最優秀選手】	松井繁
【最優秀新人選手】	瓜生正義
【最多賞金獲得選手】	松井繁
【最高勝率選手】	今村豊
【最多勝利選手】	林通
【優秀女子選手】	山川美由紀
【特別賞】	永滝芳行
【記者大賞】	松井繁

地元・桐生のオールスターでSGV2を飾った山崎智也



96年福岡ダービーでは節間2度の転覆を喫した濱野谷憲吾が、その水面でダービーキングに



1億円を手にした太田和美だったが、優秀選手には選ばれず



スタートを切ったと言ってもいいだろう。なお、最優秀新人に輝いたのは瓜生正義。養成所時代から注目されてきた逸材が順調に成長を見せた。



多摩川で実験されたチルト4度、ファンを驚かせる新サービスも拡大

2008年

全国で企画レースも急増

2008年主な出来事

- 北京オリンピック開催、日本の金メダルは9個
- iPhone 3G発売
- 「ゆるキャラ」ブーム
- 秋葉原通り魔事件
- 【流行語大賞】グ〜!(エド・はるみ)、アラフォー

本誌が主催した学生舟券選手権



00年代後半は、公営競技全体が厳しい時期だった。ボートレースも例外ではなく、売り上げの復活を図って、新たな広報活動やファンサービスの拡大が試みられた。当時はまだ本場の売上が大きかったため、来場促進のイベントや企画が多かった。OBや専門家を呼んでの予想会や勝利選手の公開インタビュー、来場ポイントの付与、ペアボート、初心者教室などの機会も増えた。

レースにおいても、男女W優勝戦や世代対抗戦(例…シニアVSヤング)などが増え、もっと企画

性の強い開催も見られるようになってきた。さらに強豪選手を好枠に入れて予想をわかりやすくするシード番組がこの頃から全国的に拡大していった。また前年のモーターボート法改正で20歳以上の学生が舟券を買うようになったので、本誌でも大学生による舟券大会などの企画を行った。

多摩川でチルト4度の実験も!

05年頃からファンには大きな人気を集めていた「チルト3度」の選手たち。その代表的存在である阿波勝哉がこの年、大外から9連勝を飾って自己記録更新。チルト3度解禁の場が急増した。さらにスピード水面として注目度の高い多摩川においては、チルト4度の実験も行われている(実現には至らず)。しかしその一方で、ナイター場の増加やレース場周囲への騒音対策、そしてレースの安全性も考慮されて、エンジンは「標準機」から「消音機」(後に「減音機」と呼称)への全国統一が図られていく。これによって出足型のエンジンが

優秀選手表彰

【最優秀選手】	松井繁
【最優秀新人選手】	篠崎元志
【最多賞金獲得選手】	松井繁
【最高勝率選手】	吉川元浩
【最多勝利選手】	岡本慎治
【優秀女子選手】	横西奏恵
【特別賞】	該当者なし
【記者大賞】	井口佳典

実現には至らなかったチルト4度。使用している阿波勝哉のボートは、直線でフィンまで見えている



主流となり、インの強さがジワジワと上昇していった。

MVP争いは松井繁VS井口佳典

水上での覇権争いは、クラシック(総理大臣杯)とオーシャンカップを勝った松井繁が前半戦をリード。それに対抗したのは井口佳典だ。オールスター(笹川賞)で5コースから鮮やかなまくり差して初のSGタイトルを手に入れると、年末のグランプリ(賞金王決定戦)も制した。一方で松井も夏以降、堅実な戦いを続けて、年間の獲得賞金ではトップ。そしてこの年の優秀選手選考では、記者大賞は井口、最優秀選手は松井が選出され、珍しく選考が割れた。

選手養成で大幅な年齢緩和

選手募集の条件が大きく変わった。養成所を08年10月に受験する106期生から、年齢制限の上限をそれまでの21歳未満から30歳未満に拡大。大卒者や社会人経験のある志願者が増えた。さらに他のスポーツでとくに優秀な成績を残した志願者を対象とした「特別選抜制度」も設け、選手への道は大きく開かれた。